

# 多核的な城郭 映す権力構造

たした四面廂建物の成立状況からも、分立的で連合的な構造が際立つのです。

こうした城郭構造の分

析から見えてくるのは、鳥海柵をつくった安倍氏は、安倍氏だけが圧倒的に強かったのではなく、有力な一族や、地域の豪族たちの連合政権を構成していた権力構造です。

連合的な権力の長として一族や地域の豪族たちを率い、そうした人々が安倍氏を中心に集まって、巨大な城をつくり出した

す。

先にも触れたように鳥海柵は江戸時代の城のように絶対的な本丸を中心にした城郭構造ではなく、多核的な分立構造で、

四面廂建物がまだあるけれど、別の場所に新たな四面廂建物が建てられたと考えることも可能だと思います。

つまり鳥海柵の中で中心的役割を果たす建物が、1カ所に継続的に集

中したのではなく、鳥海柵自体を順次整備し、新たな城館が加わり規模が

拡張していく中で、それぞれの中心的な場所に四面廂建物が同時併存的に

あったと私は考えていま

りになっていったのを今、体感できます。

鳥海区域に大地を区

切った堀がさらにあっただのか、なかったのかは、

今後の課題です。航空写

真の判読で見えてきた城としての全体像のなかに、四方に廂をもった建物がどこで見つかったかを加えて考察してみると、「鳥海柵のある1カ所に上級の建物が集中したのではなかった」という特徴が一層鮮明になりました。

縦街道南と原添下、鳥海の西側に四面廂の立派な建物がありました。発掘成果の分析によると、

こういう象徴的な建物が建てられた時期は、それ

ぞれ前後の差があると教えていただきました。

個々の建物の成立時期に若干の差があること

に、異論はありません。

しかし同時期に四面廂建物が一棟しかなかったと考える必要もないと思います。最初に建てられた四面廂建物はまだあるけれど、別の場所に新たな四面廂建物が建てられたと考えることも可能だと思います。

つまり鳥海柵の中で中心的役割を果たす建物が、1カ所に継続的に集

中したのではなく、鳥海柵自体を順次整備し、新たな城館が加わり規模が

拡張していく中で、それぞれの中心的な場所に四面廂建物が同時併存的に

## 金分崎の国指定史跡 鳥海柵跡

4

### 考察 全盛期の中心的建物

2017年度 シンポジウムより

講演 千田 嘉博氏 (奈良大学教授)

### 「前九年合戦と鳥海柵」 IV



鳥海柵の城郭構造について解説する千田嘉博教授

千田 嘉博 (せんだ・よしひろ) 奈良大学文学部文化財学科教授。1963年、愛知県生まれ。奈良大学文学部文化財学科を卒業後、名古屋市見晴台考古資料館学芸員、国立歴史民俗博物館助教授を経て現職。

のが鳥海柵でした。(つづく)